

平成30年度の自己点検・自己評価
に対する学校関係者評価報告書

学校法人 赤門学院

専門学校 赤門自動車整備大学校

第五回 学校関係者評価報告書

設置者	学校法人 赤門学院																
学校名	専門学校 赤門自動車整備大学校																
会議名	第五回 学校関係者評価委員会																
開催日時	令和1年12月3日（火） 14:00～15:10																
場所	宮城県仙台市青葉区川内川前丁61 専門学校赤門自動車整備大学校 3階会議室																
出席者	<p><学校関係者評価委員></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">阿部勝自動車工業株式会社</td> <td>取締役営業部長 阿部 勝敏</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>理事長・校長 國分 活妙</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>全科教務指導長 福原 祥之</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>広報副室長 阿部 慎也</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>事務長 石川 良昭</td> </tr> </table> <p>※出席者：5名</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">株式会社 赤門自動車学校</td> <td>専務取締役 國分 直人</td> </tr> </table> <p>※欠席者：1名</p> <p><その他></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>学生課・受付 若生 千晶</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>職員 小原 禎司</td> </tr> </table>	阿部勝自動車工業株式会社	取締役営業部長 阿部 勝敏	専門学校 赤門自動車整備大学校	理事長・校長 國分 活妙	専門学校 赤門自動車整備大学校	全科教務指導長 福原 祥之	専門学校 赤門自動車整備大学校	広報副室長 阿部 慎也	専門学校 赤門自動車整備大学校	事務長 石川 良昭	株式会社 赤門自動車学校	専務取締役 國分 直人	専門学校 赤門自動車整備大学校	学生課・受付 若生 千晶	専門学校 赤門自動車整備大学校	職員 小原 禎司
阿部勝自動車工業株式会社	取締役営業部長 阿部 勝敏																
専門学校 赤門自動車整備大学校	理事長・校長 國分 活妙																
専門学校 赤門自動車整備大学校	全科教務指導長 福原 祥之																
専門学校 赤門自動車整備大学校	広報副室長 阿部 慎也																
専門学校 赤門自動車整備大学校	事務長 石川 良昭																
株式会社 赤門自動車学校	専務取締役 國分 直人																
専門学校 赤門自動車整備大学校	学生課・受付 若生 千晶																
専門学校 赤門自動車整備大学校	職員 小原 禎司																
会議内容	<p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会および理事長挨拶 2. 自己評価の結果について説明 3. 自己評価の結果について審議 4. 閉会 <p><審議内容について></p> <p>(1) 教育理念・目標 学校の理念等は学生便覧に記載しており、学生・教職員に周知を行っている。その中で学生は外国人留学生が増えてきおり、学校側が当たり前と思っていることでも、外国人留学生側にとっては当たり前ではないこともあるので、外国人留学生側に丁寧の説明しお互い理解していくことが必要である。</p> <p>(2) 学校運営 自己評価、課題、改善方策については妥当。</p> <p>(3) 教育活動 仕事量に対して教員数が不足している中、教職員の人材育成に関して、新人教育、職員面接時から、個人の特性等を見極めをし、人材を確保していくべきである。また、外部側の委員からは、委員の企業でも社員（整備士）不足及び定着の問題を抱えていたが、外部のコンサル等を雇って分析・対応したところ、その結果、若い社員は有給休暇の取りやすさや残業があまりないこと等を重視しておりそのあたりを改善したところ離職率が劇的に下がった、との意見があった。</p> <p>(4) 学習成果 自己評価、課題、改善方策については妥当。</p> <p>(5) 学生支援 学生の健康管理についての評価が上がったが、健康診断の実施・その後のフォロー、インフルエンザ等発生への対応、教職員間での情報の共有化等の部分が評価されたと思われる。一方、学生相談窓口の利用者が少ない等の課題もあり、学生が利用しやすいように見直す等の改善も必要である。</p> <p>(6) 教育環境 施設・設備でまだ不十分なところはある。特記事項として、当法人で、山形県飯豊町に電気自動車に特化した専門職大学を設立予定であり、将来的には赤門自動車整備大学校でも電気自動車の専門知識の一部を教育できる可能性を有している、というものがある。</p>																

(7) 学生の受入れ募集

課題として、学校見学会等への参加者（特に、日本人学生）が少ないというのがある。高校1,2年生へのアプローチの強化、HPやSNS等を利用し教育成果を積極的に開示、学校見学会等の内容は常に検討・振り返り等を行い改善していく必要がある。

(8) 財務

財務関係は一般教職員には的確に評価しづらいところがある。今回評価を落とした箇所（財務について会計監査が適正に行われているか・情報公開の体制整備はできているか）があり、法人の財務内容を的確に内部・外部にどう発信していくのかが課題となっている。一方、外部側の委員より、委員の企業では会社の大きな理念・目標等は伝えるが、詳細な財務内容は説明しておらず、内部の者への詳細な財務内容の説明はあまりこだわらなくてもよいのではないかと、との意見もあった。

(9) 法令等の遵守

自己評価、課題、改善方策については妥当。

(10) 社会貢献・地域貢献

学生のボランティア活動を奨励、支援が足りないのが課題となっている。また、中高生対象の職場体験を増やすなどの、外部に対しての宣伝も増やしていく必要がある。

(11) その他

自己評価の評価点自体は昨年と同レベルだが、回答した教職員の中には、評価点のみ記入し内容の説明がない者がいた。教職員には自己評価の意義自体をさらに認識・理解してもらい、来年度以降は特に悪い評価点の場合どう悪いのか具体的に記入してもらおう等の対応を行い、今後の改善につなげていけるようにし自己評価の内容を更に充実させたいと考えている。

以上